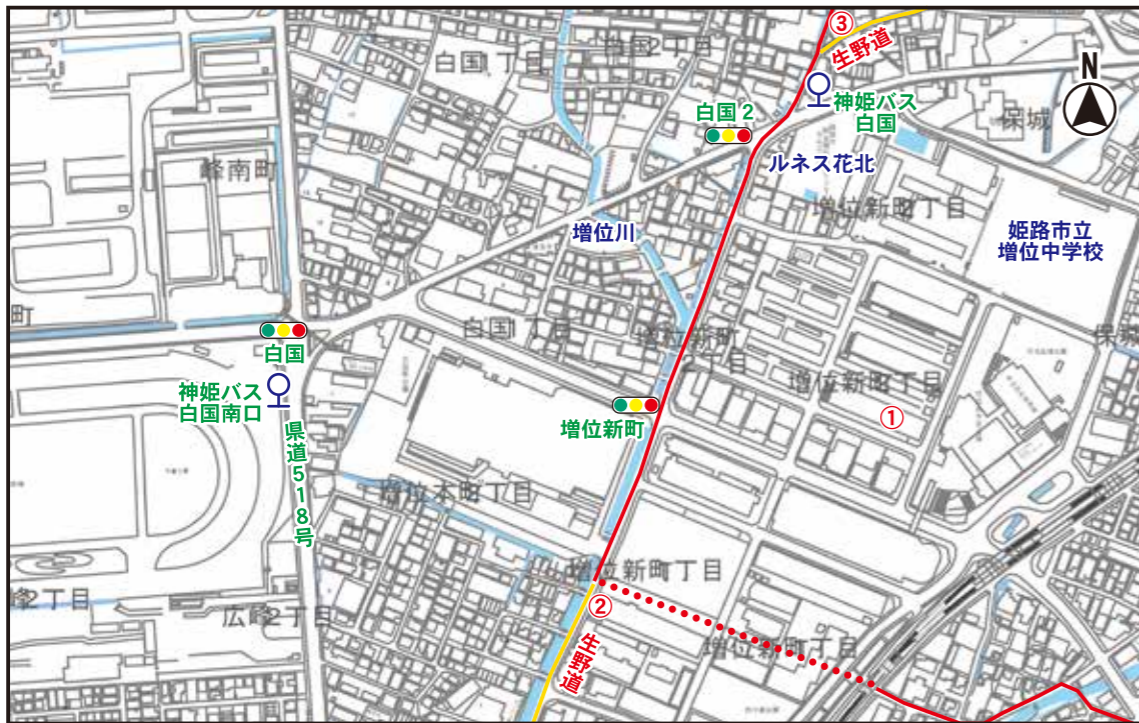


①勝松神社(旧村社格、旧東中島村・西中島村・横手村の鎮守、戦国時代に播磨守護赤松政則が禅宗寺院の勝松寺を建立し鎮守として弁財天が祀られていたという、天正の頃別所氏の兵火にかり勝松寺は焼失、弁財天は兵火を免れ勝松社と称したという、宝暦14年(1764)手洗石、文化3年(1806)唐人図絵馬、嘉永5年(1852)武者図絵馬、境内に多数の力石) ②法林寺(山号無量山、真宗大谷派、享禄5年(1532)創建という) ③西中島の薬師堂(扁額に「薬師堂 明徹山加立寺」、修復前の鬼瓦銘に「天保十三(1842)とら かまへ瓦 次郎」のへら書き)、弘化4年(1847)道標(正面:地藏坐像)左ほつけ 右側面:弘化四丁末年 左側面:しよしや)



①東洋紡績姫路工場跡(大正8年(1919)創業、昭和20年(1945)戦災、昭和50年(1975)閉鎖) ②生野道・巡礼道分岐点推定地(生野道は但馬街道、但州出石道ともい、姫路城下老丁町で西国街道から分岐し外堀堀留の生野道大木戸から北進、当地附近で巡礼道と交錯すると考えられる) ③生野道・巡礼道分岐点(当地より巡礼道・増位山道は北進、生野道は東進)、道標(正面:増位山道 右側面:右たじまみち)

【編集: 姫路市文化財保護協会】



『西国三十三所巡礼道』をたずねてその2

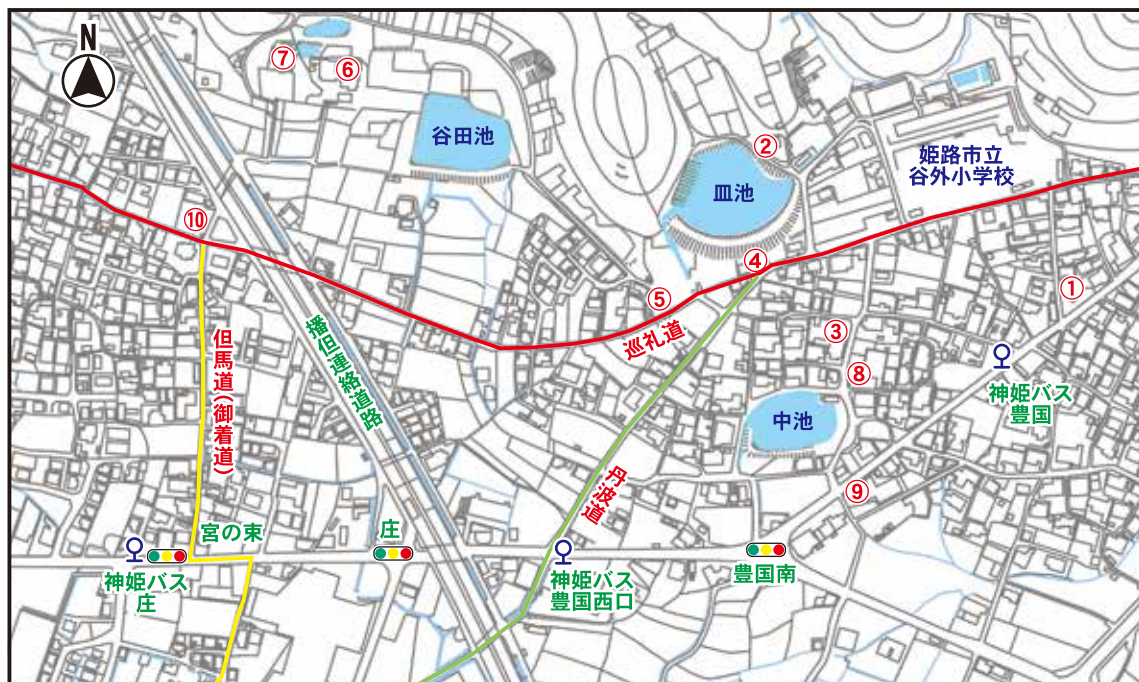


①飾東古墳群(春日野古墳群、6世紀中頃築造の横穴式石室の円墳とみられ7世紀中頃まで追葬)



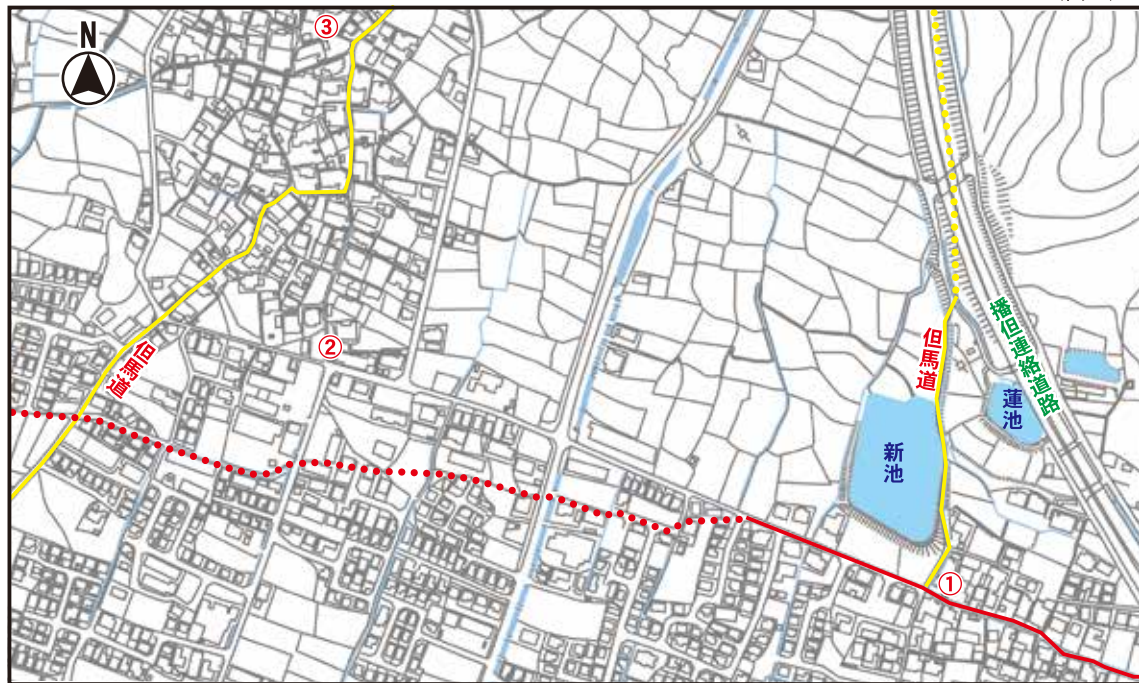
①春日野社(旧郷社格、塩崎・春日野・豊国・上原田の総鎮守、長暦元年(1037)天川を奈良紡績川に、城山を三笠若草に擬し春日四所大明神を城山東麓の祀ったという、元文4年(1739)手洗石、宝暦10年(1760)境内社前石燈籠、安政4年(1857)石燈籠、四季農耕図絵馬) ②庄山城跡(14世紀末～16世紀中頃の中世城郭跡、星田保にあり赤松貞範築城、貞範子孫が城主を継承したが永禄年中(1558-70)に別所氏に攻め取られ天正5年(1577)城主別所重棟は秀吉に属し破城(赤松家播備作城記)、また享禄3年(1530)小寺村職(政隆)は浦上村宗に攻められ庄山城で討死(書写山十地坊過去帳、二水記)、また永禄12年(1569)庄山城を落城させた信長軍が陣所とした(益田家什書)等、戦国時代の激しい攻防が伝わる、「文化財見学シリーズ」74参照)

<図3>



①大歳神社 ②天満宮(豊国の鎮守) ③願正寺(山号豊国山、浄土真宗本願寺派、元亀元年(1570)開基道知、宝暦12年(1762)木仏寺号、嘉永年間(1848~54)暴風で本堂倒壊、青野原村浄徳寺本堂を買い受け万延元年(1860)再建) ④巡礼道・丹波道分岐点(丹波道は姫路城竹之門から小川渡を経て北進する道は佐良和で巡礼道と交錯(図5①)、東進する道は豊国のこの地点で巡礼道に交錯し八重畑の雉子端で分岐(93号巡礼道その1図4参照)、延宝5年(1677)豊国石造道標(市指定、現存市内最古の道標、板碑型、凝灰岩製、正面:(梵字)奉納西国卅三所願礼成就攸 延宝五年 九月十八日(下部に門、七人など刻銘)、右側面:(梵字)これより右ハしよしや道)、文久3年(1863)道標(角柱型、正面:観音立像、西国秩父阪口豊国 右側面:すぐほつけ 左側面:此方ひめし 背面:しよしや) ⑤享保3年(1718)六地藏、延享元年(1744)地藏立像 ⑥醫王寺(山号瑞祥山、曹洞宗、もと国分寺七仏薬師の一仏を祀る小堂を寛永年中(1624~44)に曹洞宗醫王寺として創建(飾磨郡誌)、元禄14年(1701)手洗石) ⑦大歳神社(庄の鎮守、もと星田庄鎮守といわれ庄と上原田西部の鎮守、天保10年(1839)獅子狛犬、慶応3年(1867)源平合戦図絵馬、大歳神社祭礼図絵馬) ⑧日切地藏 ⑨道標(角柱型、正面:(地藏坐像)右書写山 西ひめし 東谷地藏) ⑩巡礼道・但馬道(御着道)分岐点、地藏堂、石燈籠型道標(正面:すぐしよしや山 右側面:此方こちやく 左側面:すぐほつけ山)、昭和4年醫王寺参道石柱(正面:西国及秩父阪東靈場有明山 左側面:本尊薬師如来 飾磨西国廿八番札所 醫王寺)

<図4>



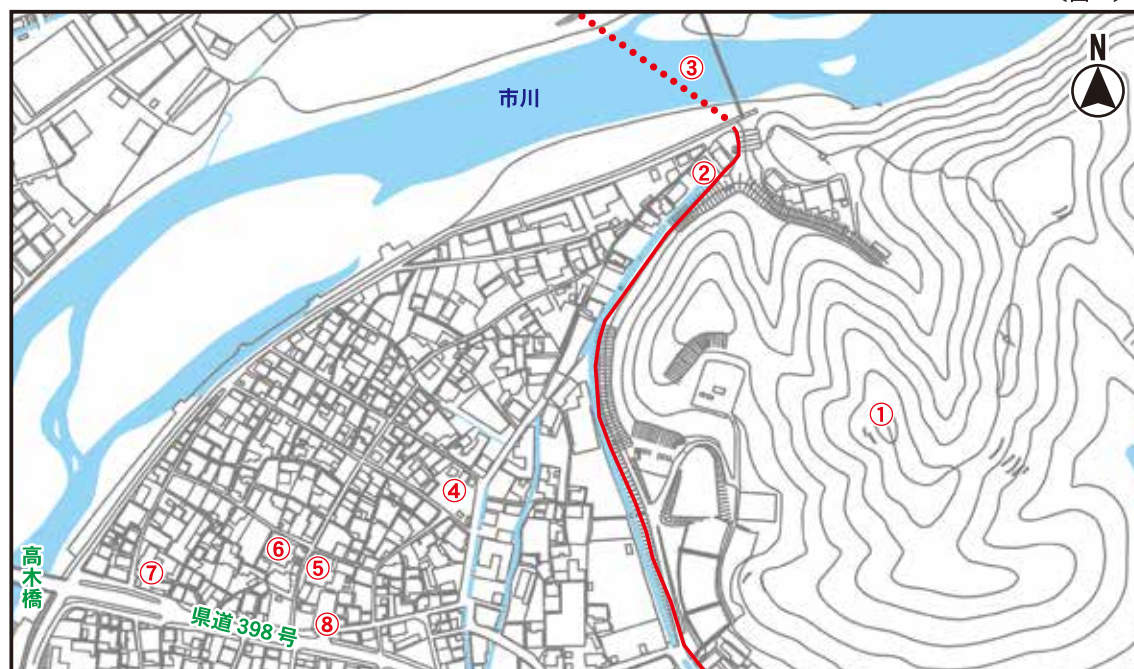
①巡礼道・但馬道分岐点、道標(角柱型、正面:南ひめぢ道 右側面:東ほつけこちやく道 左側面:西しよしや山みち 背面:たじま道、但馬道は図3の⑩から図4の①まで巡礼道と重なる) ②道標(角柱型、正面:口蔵徳神社 左ひろみねしよしや道) ③貞治2年(1363)佐良和の石棺(貞治子安地藏、凝灰岩製の板石(石棺の一部)を舟形光背形に彫りくほめ像高50cmの地藏立像を薄肉彫り、刻銘:貞治二癸卯年八月廿四日 願主妙阿弥陀仏)

<図5>



①巡礼道・丹波道・但馬道分岐点(丹波道は姫路城竹之門から小川渡を渡河して北上し佐良和のこの地点で交錯、または小川渡から東進して豊国で交錯(図3④))、文化8年(1811)道標(角柱型、正面:(地藏坐像)先祖代々勇玄童子 すぐたじま道 右側面:文化八未二月 すぐみちしよしや 左側面:すぐみちほつけ 背面:すぐみちひめぢ) ②天満神社(小川の鎮守、旧村社格、興国元年(1340)勧請創建といひ正保4年(1647)小川村天神が村の北石積山(現在地)に勧請された際に奥平松平忠弘が社領を寄付した(飾磨郡誌)、元禄14年(1701)大鳥居柱残欠、宝永7年(1710)手洗石、弘化4年(1847)石燈籠一對、弘化4年(1847)獅子狛犬)

<図6>



①石積山城跡(文明15年(1483)山名政豊の播磨侵攻で没落した赤松政則は文明17年(1485)に播磨に侵攻して石積城(石積陣)を本拠として書写坂本の山名氏と対峙、長享2年(1488)山名政豊は播磨から撤退、「文化財見学シリーズ」74参照) ②花田井(市川から高木で取水し江戸時代の水掛りは9ヶ村5450石余、正徳3年(1713)以前の築造、天保元年(1830)生野鉦山鉦夫を雇い取水口から隧道を掘削した) ③松ヶ瀬の渡推定地 ④高乃木神社(高ノ木神社、高木の鎮守、高木三社(高木鞆の祖聖神を祀る聖神社・須佐ノ男神を祀る大将神社(旧村社格)・菅原道真を祀る天満神社)が合祀された) ⑤正樂寺(山号無量山、浄土真宗本願寺派、永禄10年(1567)方圓開基、寛永18年(1641)木仏寺号、太閤井戸が庫裡下にあるという(飾磨郡誌)) ⑥教福寺(山号撰取山、浄土真宗本願寺派、慶長8年(1603)宗受開基、延宝4年(1676)木仏寺号) ⑦高木延命地藏尊 ⑧大正4年(1915)道標(正面:(地藏坐像)西しよしや 東ほつけ 右側面:御大典記念 左側面:南花田村役場 背面:大正四年十一月 安部伝右衛門建立)